

久留米市地場企業景況調査レポート(平成21年4月～6月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

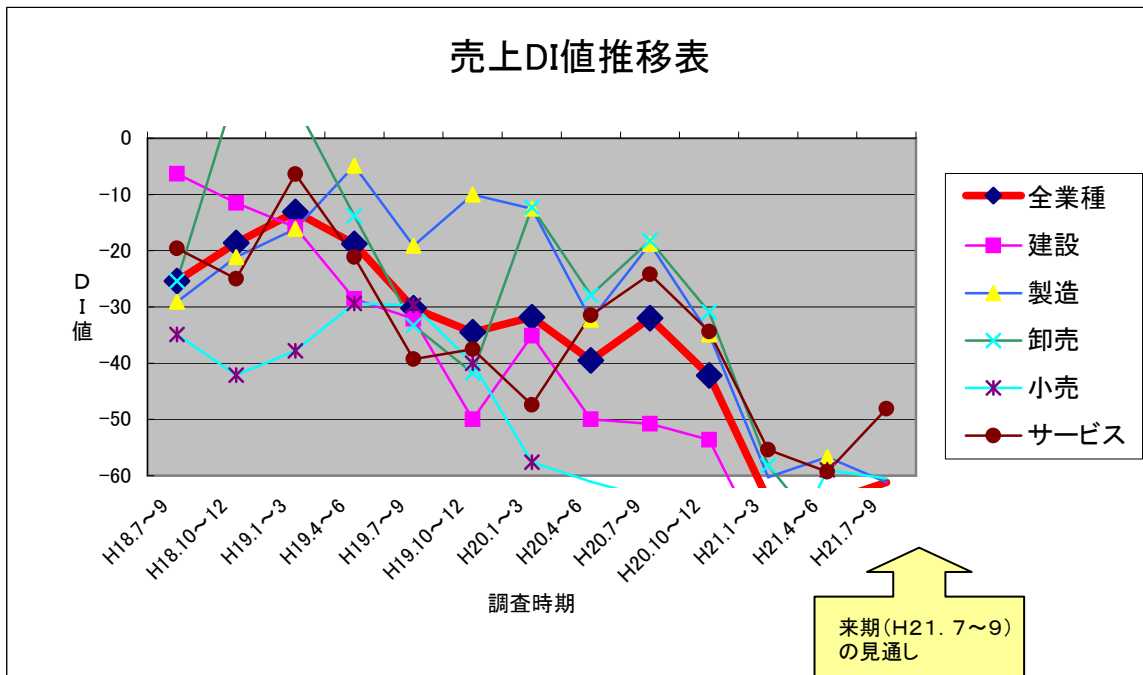
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成21年4月～6月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	290	48.3%
建設業	120	61	50.8%
製造業	120	67	55.8%
卸売業	120	69	57.5%
小売業	120	39	32.5%
サービス業	120	54	45.0%

売上DI値推移表

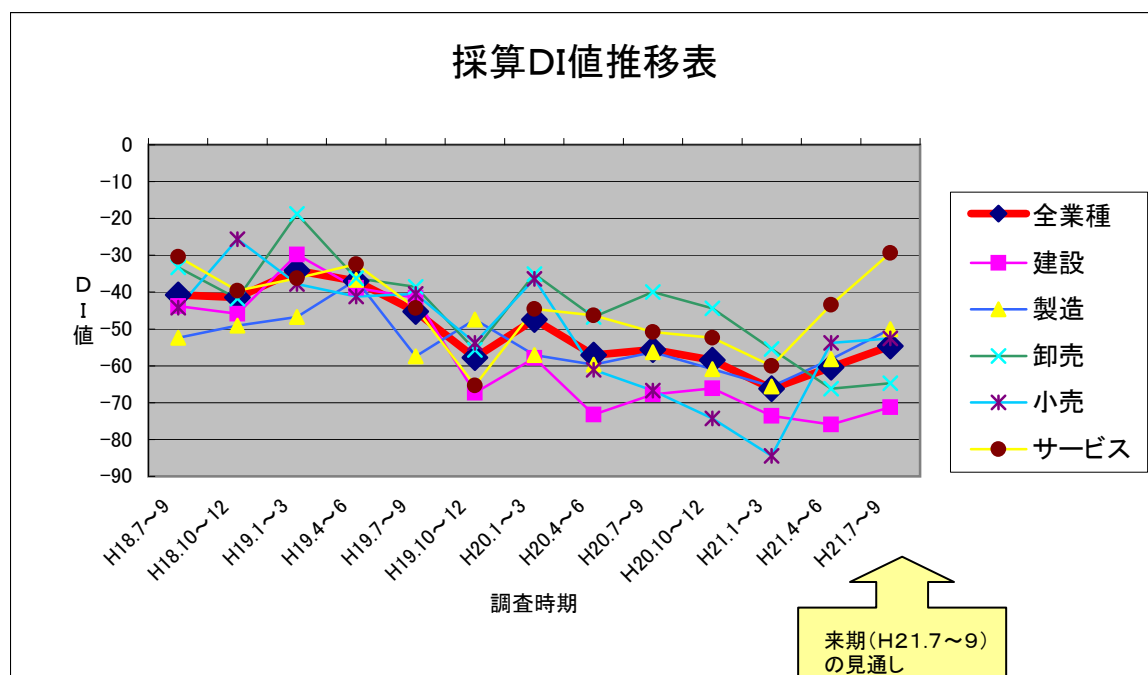


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は24社(前期比5社減)、「減少した」と回答した企業は209社(前期比14社増)、「横ばいである」と答えた企業は53社(前期比19社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は三期連続で拡大して▲64. 7となり、前期比で0. 4ポイント悪化した。

業種別に見ると、建設業▲71. 9(前期比2. 6P好転)、製造業▲56. 7(前期比3. 6P好転)、卸売業▲71. 0(前期比12. 8P悪化)、小売業▲59. 0(前期比21. 6P好転)、サービス業▲59. 3(前期比3. 9P悪化)となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲61. 2と3. 5ポイント好転する見込み。

採算DI値推移表

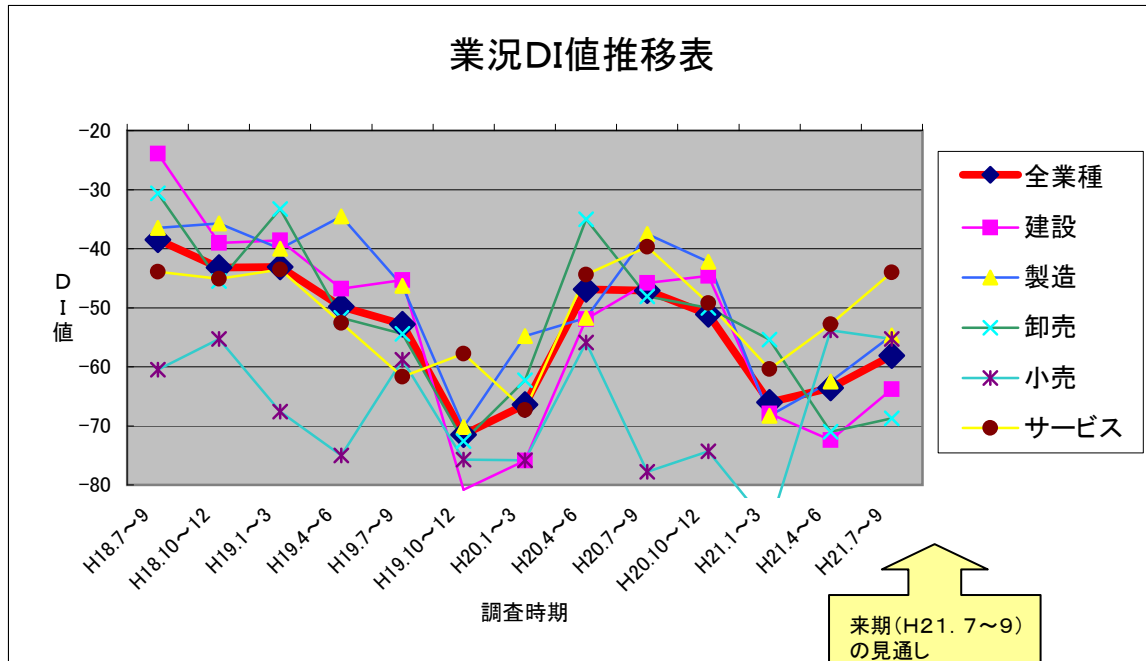


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は18社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は190社(前期比5社増)、「横ばいである」と答えた企業は77社(前期比15社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに縮小して▲60. 4となり、前期比で5. 8ポイント好転した。

業種別に見ると、建設業▲75. 9(前期比2. 3P悪化)、製造業▲58. 2(前期比7. 4P好転)、卸売業▲66. 2(前期比10. 8P悪化)、小売業▲53. 8(前期比30. 6P好転)、サービス業▲43. 4(前期比16. 6P好転)となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲54. 6と、5. 8ポイント好転する見込み。

業況DI値推移表

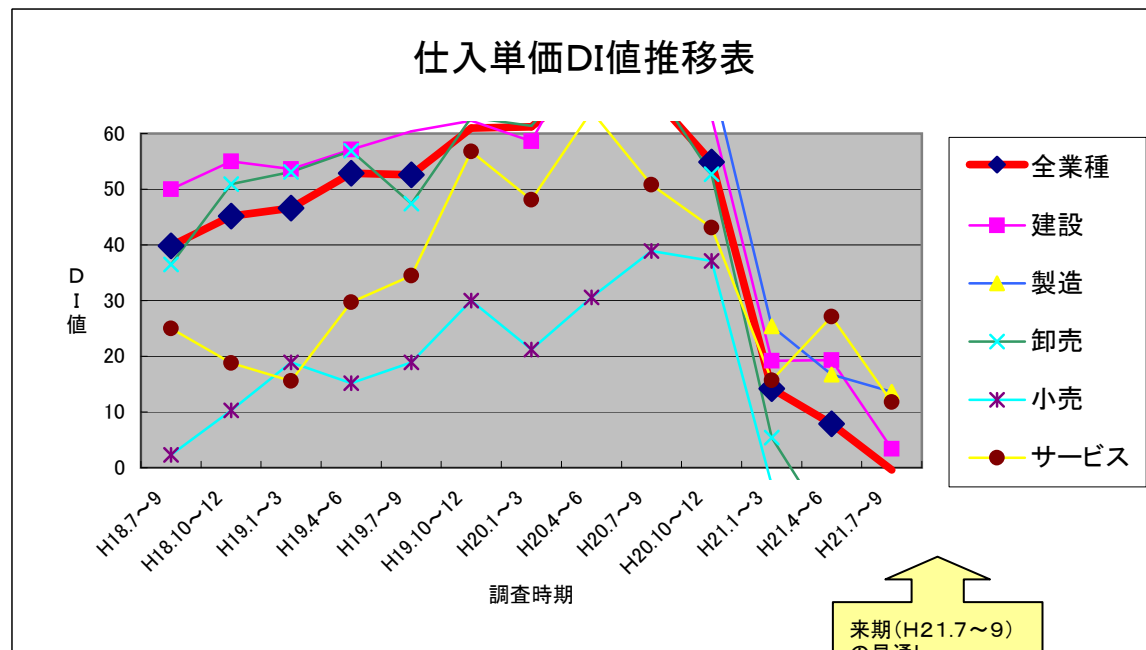


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は13社(前期比1社増)、「悪化した」と回答した企業は193社(前期比12社増)、「横ばいである」と答えた企業は77社(前期比14社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに縮小して▲63. 6となり、前期比で2. 4ポイント好転した。

業種別に見ると、建設業▲72. 4(前期比4. 5P悪化)、製造業▲62. 5(前期比5. 8P好転)、卸売業▲71. 0(前期比15. 6P悪化)、小売業▲53. 8(前期比33. 3P好転)、サービス業▲52. 8(前期比7. 6P好転)となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲58. 1と、5. 5ポイント好転する見込み。

仕入単価DI値推移表

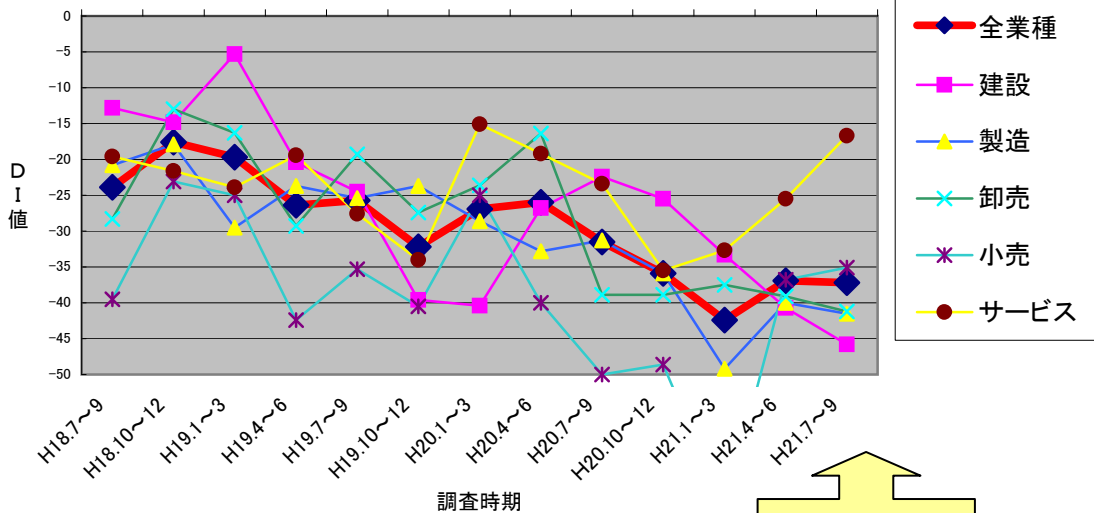


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は84社(前期比4社減)、「低下した」と回答した企業は62社(前期比10増)、「横ばいである」と答えた企業は133社(前期比19社増)であった。DI値を見ると、4期連続で縮小して7. 9となり、前期比で6. 3ポイント好転した。

業種別に見ると、建設業19. 3(前期比0. 1P悪化)、製造業16. 7(前期比8. 7P好転)、卸売業▲11. 6(前期比17P好転)、小売業▲12. 8(前期比9. 7P好転)、サービス業27. 1(前期比11. 4P悪化)となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲0. 4と、8. 3ポイント好転する見込み。

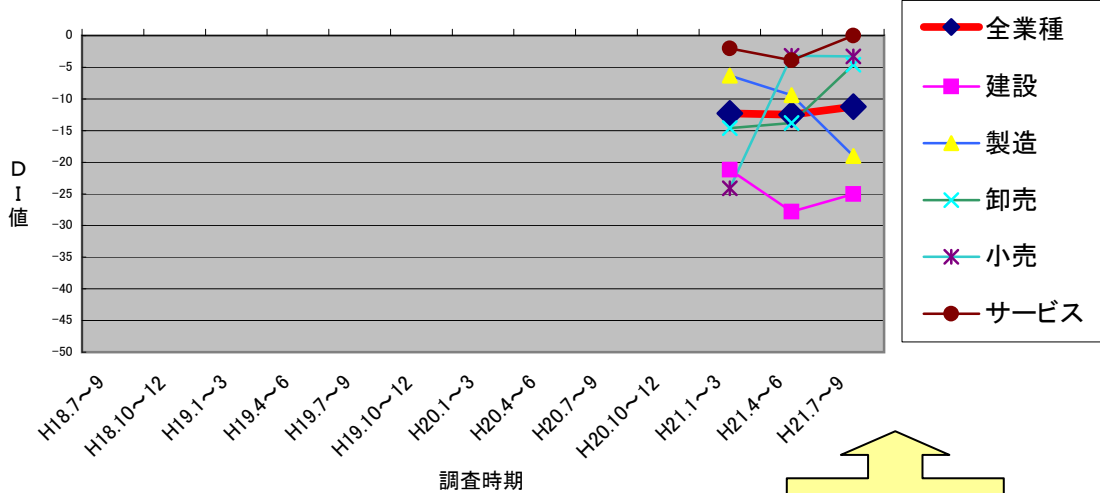
資金繰りDI値推移表



来期(H21.7~9)の見通し

今期(H21.4~6)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は9社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は113社(前期比2社減)、「横ばいである」と答えた企業は160社(前期比24社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期ぶりに縮小して▲36.9となり、前期比で5.5ポイント好転した。
業種別に見ると、建設業▲40.7(前期比7.4P悪化)、製造業▲40.0(前期比9.2P好転)、卸売業▲39.1(前期比1.6P悪化)、小売業▲36.8(前期比16.6P悪化)、サービス業▲25.5(前期比7.2P好転)となった。
来期(H21.7~9)の見通しでは全業種DI値は▲37.2と、0.3ポイント悪化する見込み。

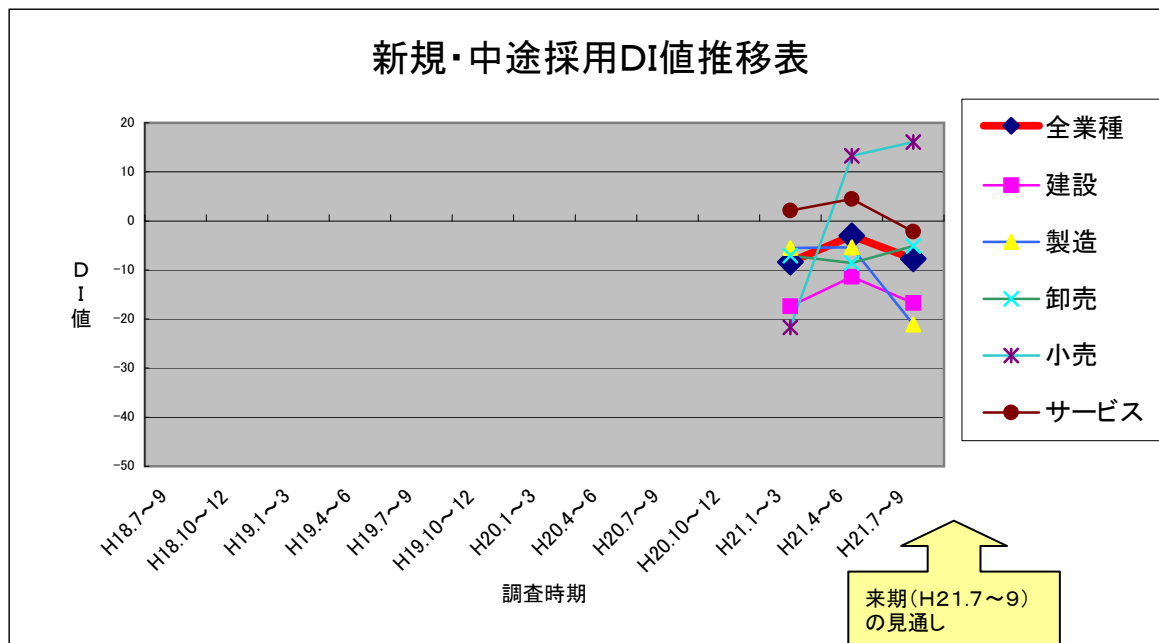
従業員数DI値推移表



来期(H21.7~9)の見通し

今期(H21.4~6)の久留米市地場企業景況調査で従業員数面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は26社、「減少した」と回答した企業は59社、「横ばいである」と答えた企業は180社であった。DI値は▲12.5となった。
業種別に見ると、建設業▲27.8、製造業▲9.4、卸売業▲13.8、小売業▲3.2、サービス業▲3.9となった。
来期(H21.7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲11.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲25.0、製造業▲4.6、卸売業▲4.6、小売業▲3.3、サービス業0.0となる見込み。

新規・中途採用DI値推移表

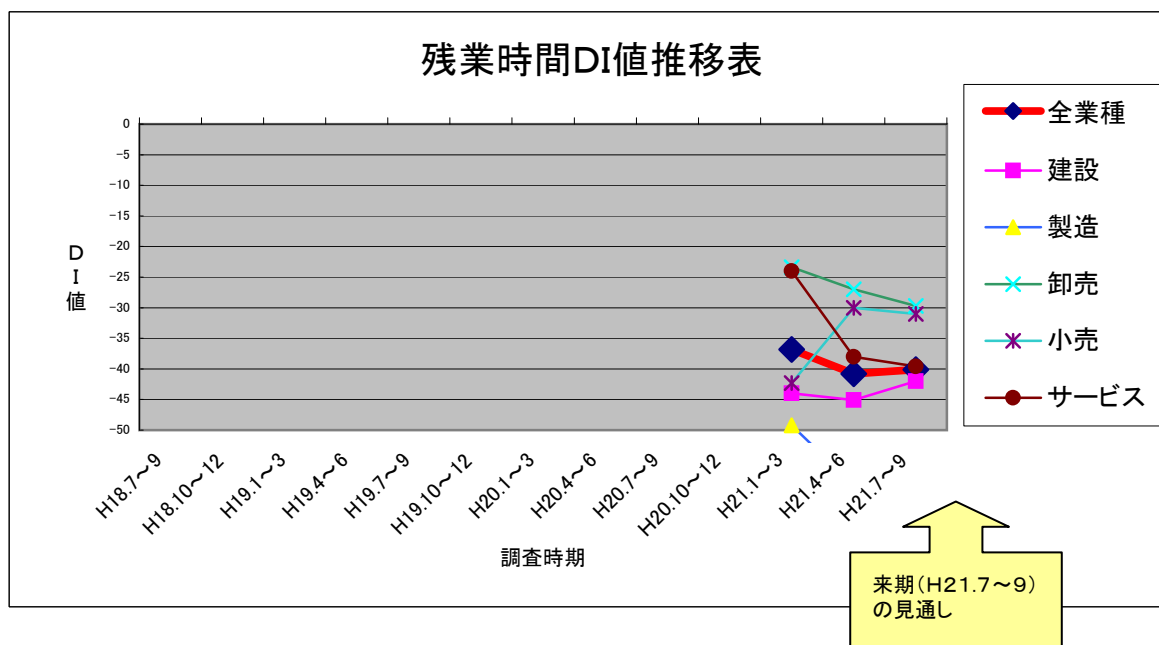


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で新規・中途採用面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は24社、「減少した」と回答した企業は31社、「横ばいである」と答えた企業は177社であった。DI値は、▲3. 0となった。

業種別に見ると、建設業▲11. 4、製造業▲5. 4、卸売業▲8. 6、小売業13. 3、サービス業4. 5となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲7. 7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲16. 7、製造業▲21. 1、卸売業▲5. 1、小売業16. 1、サービス業▲2. 2となる見込み。

残業時間DI値推移表

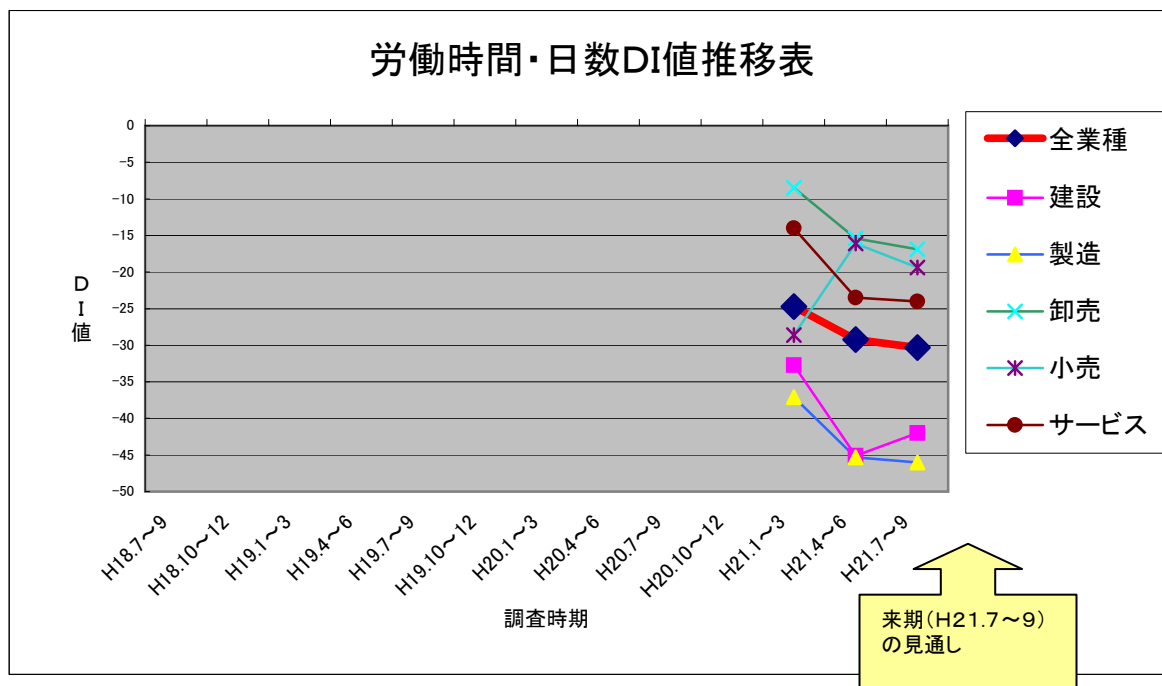


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で残業時間面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は8社、「減少した」と回答した企業は112社、「横ばいである」と答えた企業は135社であった。DI値は▲40. 8となった。

業種別に見ると、建設業▲45. 1、製造業▲59. 0、卸売業▲27. 0、小売業▲30. 0、サービス業▲38. 0となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲40. 1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲42. 0、製造業▲54. 1、卸売業▲29. 7、小売業▲31. 0、サービス業▲39. 6となる見込み。

労働時間・日数DI値推移表

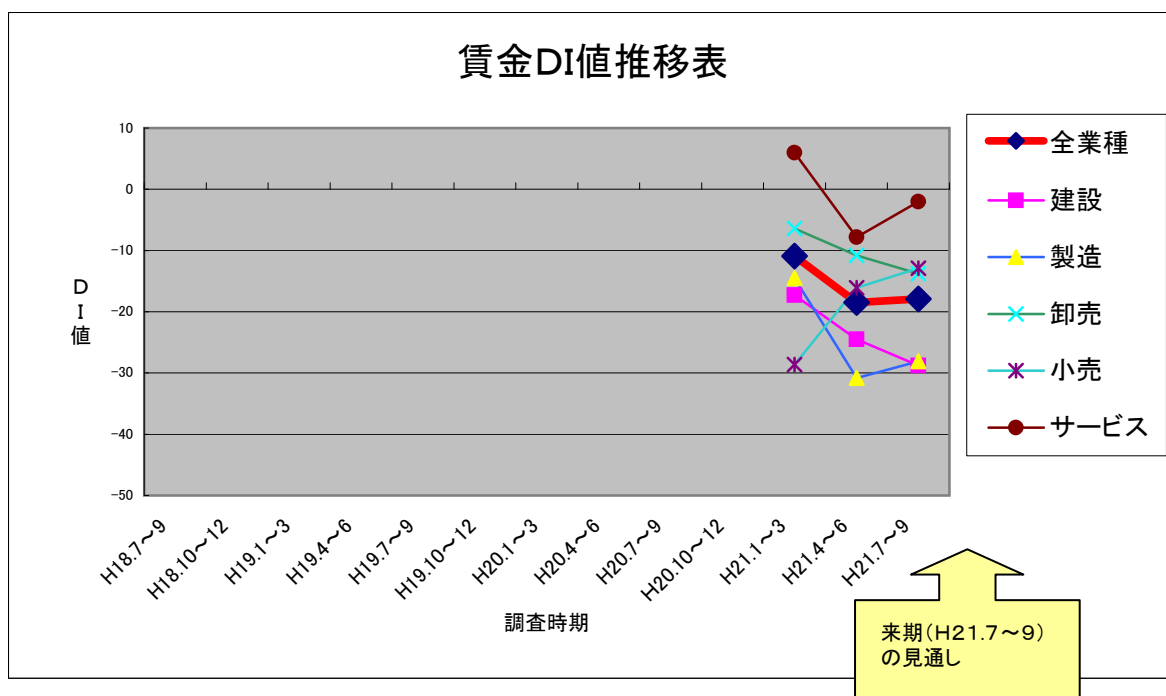


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で労働時間・日数面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は4社、「減少した」と回答した企業は81社、「横ばいである」と答えた企業は179社であった。DI値は▲29. 2となった。

業種別に見ると、建設業▲39. 6、製造業▲45. 3、卸売業▲15. 4、小売業▲16. 1、サービス業▲23. 5となった。

来期(H21. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲30. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲40. 4、製造業▲46. 0、卸売業▲16. 9、小売業▲19. 4、サービス業▲24. 0となる見込み。

賃金DI値推移表

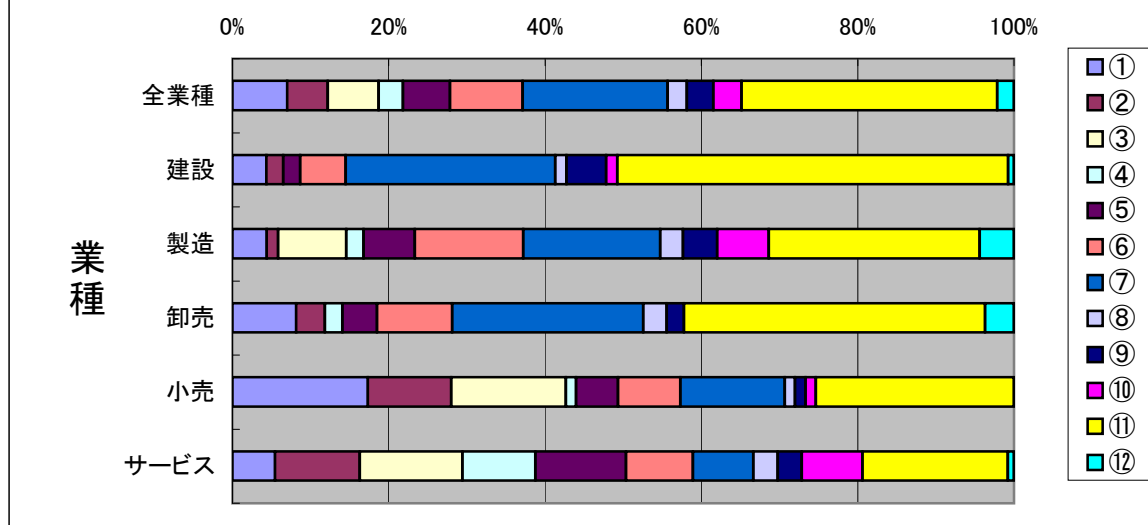


今期(H21. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で賃金面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は22社、「減少した」と回答した企業は71社、「横ばいである」と答えた企業は172社であった。DI値は▲18. 5となった。

業種別のDI値では、建設業▲24. 5、製造業▲30. 8、卸売業▲10. 8、小売業▲16. 1、サービス業▲7. 8となった。

来期(H21. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲17. 9となる見込み。業種別に見ると、建設業▲28. 8、製造業▲28. 1、卸売業▲13. 8、小売業▲12. 9、サービス業▲2. 0となる見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H21. 4~6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(32.7%)」「販売価格の低下(18.6%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、「需要の停滞」は建設業(50.0%)、製造業(27.0%)、卸売業(38.5%)、小売業(25.3%)サービス業(18.6%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

- 「受注価格が低下傾向。仕事量も少なくなってきたり売上も低下」(一般工事業)
- 「見積依頼は多いが契約まで結びつかない事が多い」(屋根工事業)
- 「業者間の低価格競争が続く、受注ができて採算が見込めない」(一般土木建築工事業)
- 「採算が悪化しており設備投資ができない状況である」(土木工事業)
- 「官公・民間需要が停滞し、売上が伸び悩んでいる」(電気工事業)
- 「需要の停滞がいつまで続くか先行き不安」(鋳物業)
- 「受注が増加してきており、今後の見通しがつきそう」(ステンレス加工業)
- 「公共工事・民間工事の減少に伴い売上が大幅に減少してきている」(他に分類されない製造業)
- 「今期は売上額も増加し、業況も好転しているため従業員も増加」(他に分類されない製造業)
- 「バイオエタノールの生産量が増大した場合、飼料価格の高騰につながっていくことが心配である」(他に分類されない製造業)
- 「同業者の競争が激化し消費が大幅に落ち込んでいる」(食料・飲料卸売業)
- 「従業員の意識改善・モラルの向上が必要である」(鋳物・金属材料卸売業)
- 「単価が低くなるばかりで売上が伸び悩んでいる」(農畜産物卸売業)
- 「今期は引き合いが活発になり、来期の売り上げ増加に期待している」(その他の機械器具卸売業)
- 「お客様の購買意欲が低下している」(各種食料品小売業)
- 「異常気象により売上・来店客数ともに減少が続いている」(各種食料品小売業)
- 「お客様に自社の商品をいかに納得していただくかが今後の課題である」(燃料小売業)
- 「新店舗を出店したため、売上・客数ともに増加しているが、お客様の購買意欲は低下」(書籍・文房具小売業)
- 「客単価が減ってきており、消費者の節約志向が強く感じられる」(他に分類されない小売業)
- 「仕入単価の上昇および商品の値下げにより厳しい状況が続いている」(クリーニング業)
- 「常連客の年齢が上昇しており、新規顧客の開拓が必要」(飲食業)
- 「社員教育の充実化を図り、どのような戦力として育てるかが今後の課題」(人材派遣業)
- 「業界全体の仕事量が減少しており、新たなエンドユーザー開拓が必要である」(ソフトウェア業)
- 「常連客の来店頻度が減少しており、2~3ヶ月に一度になってきている」(理容業)